



2002
No. 3

The Natural Science Publishers' Association of Japan

自然科学書協会会報

発行人・朝倉邦造
編集・広報委員会
発行・2002年7月15日

社団法人 自然科学書協会

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町1-101 文化産業信用組合内 TEL03-3292-8281

東京国際ブックフェア2002で「違法コピーをなくそう」キャンペーン実施

「自然科学書フェア」の一角に1ブース。上を見上げると、出展名「NSPA著作・出版権特別出展」。背面壁には「違法コピーをなくそう」キャンペーンのパネル4枚、側面壁にも大パネル1枚が展示されている。狭いながらも、協会の担当（おじさん）要員2名でパンフレットとチラシを配っている。

4人掛けのテーブルの上にはアンケート用紙と筆記具が置いてある。ひとりがアンケートに記載し始めると、何の会話もなく、またひとり机に向かい、アンケート用紙をおもむろに見る…。

これは私が東京国際ブックフェア（TIBF）2日目の昼下がりの時間にブースを訪ねたときの光景だ。自身が『さくら』よろしく用紙記入をしていたときだから、忘れようがない。初日は、とにかくチラシとパンフレットをたくさん手にしてもらおうよう、ブース担当者に檄を入れた？かもしれないが、実際には声を大きくしなくとも、さりげなく来場者は「よく見ている」のだ。著作権思想は意外にクールかつ知的に展開しているようだった。

記念品の「世界時計ボールペン」500本は最終日に見事品切れ。ご協力下さった皆様様に深甚なる敬意と謝意を表すると同時に、議論百出大いに結構であるが、いざ実行のとき、総合プロデュースを含めた善意の協力を今後お願いしたい。

そして、貴重なアンケート結果を複写問題

特別対策に活かすべく、今後も、著作・出版権委員会を中心とした会員各位のご協力とご支援を切にお願いしたい。

なお、アンケートの集計結果ならびに意見の一部を抜粋して、以下に紹介する。

（著作・出版権特別委員会委員長 佐藤 政次）

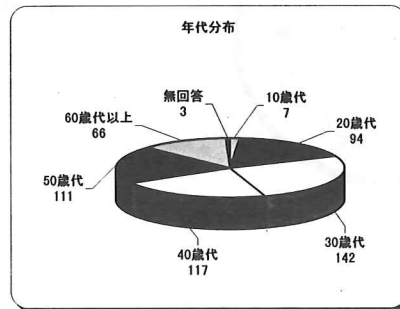
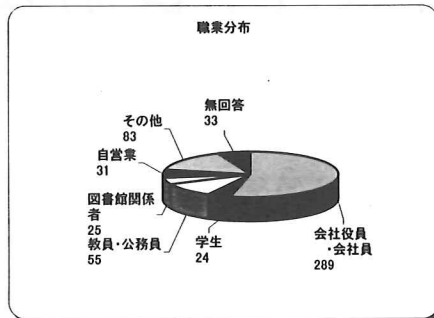
<アンケートの意見（一部抜粋）>

- ゼミで以前著作権法について小論文を課す課題が出ました。あまり広くは認知されていない事柄が多く驚きました。一般にもっと認知されるよう知的財産である著作物の保護を訴えられたらと思います。（20代、学生）
- 無許諾コピーは著作権侵害につながるとは知っていても実際にはどのように許諾を得ればよいのかわからないことが多く、許諾なしにコピーしてしまうことが多いので、もっと許諾の仕方がわかりやすくなるとよいと思う。（20代、会社役員）
- 著作物そのものの売上に関わるような侵害はあってはならないと思うが、あまり細かい取締りがあると新たな著作物を生み出す活力が失われるのではないかと思います。さじ加減が難しいとは思いますが、長い時間をかけて国民のコンセンサスを作ることが必要だと思います。（20代、会社役員）
- 出版する際非常に苦勞があって値段が高くなるが、少しでも学生の手が届く価格にすればいくらでも防げるのではなからうか。（20代、教員）
- 日本は著作権法（制度）は進んでいるのに国民の中の意識はまだ低く思う。義務教育期間中に何らかの教育を行なう方法を考えたらどうか。（20代、その他）
- 現状に加え、eデリバリなど新しい出版方法やビジネスモデルに対応する方法を考えるべき。（30代、会社役員）
- 著作権を過度に主張する社会もまた不健全であると思います。著者の経済的な利益を守りながら、なおかつ読者の文化的な要求も満たされるような、「合法的なコピー」の枠組みと宣伝が必要であると思います。多少コストがかかってもコピー税が加わってもかまわないから、知識を広めるのにバリアの少ない世の中になって欲しい。（30代、教員）

「違法コピーをなくそう!」キャンペーンアンケート集計結果

■回答者の職業と年代分布

総回答数 540件



■回答状況(全体)

質問項目	はい	いいえ (もしくは無回答)
◆質問1 [無許諾のコピーは著作権の侵害になる場合があることを知っている]	530	10
◆質問2 [無許諾のコピーが行っている社会は健全な社会とはいえないと思う]	502	38
◆質問3 [著作権の尊重は学術・文化の発展のために不可欠であると思う]	505	35
◆質問4 [複写権の管理委託制度を知っている]	237	303
◆質問5 [複写権の管理委託制度を利用したことがある]	68	472
◆質問6 [著作物をコピー、複製する場合は、出版社や関係機関に問い合わせ、許諾を得て行っている]	263	277
◆質問7 [複写機等により出版物をコピーすることは、原則として著作権者の許諾が必要であることを知っている]	437	103
◆質問8 [電子的に出版物をコピーすることは、原則として著作権者の許諾が必要であることを知っている]	445	95
◆質問9 [個人や家庭内などで使うために自らコピーする場合は、許諾なしに行っている]	477	63
◆質問10 [教育における利用の場合は、許諾なしにコピーしている]	222	318

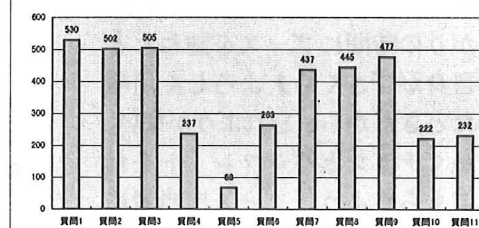
◆質問11 [次の言葉の中で、知っているものをすべて○で囲んでください]

自然科学書協会 NSPA ベルヌ条約 万国著作権条約 著作権法IPA京都大会 文化庁 アメリカCCC
 出版者著作権協議会 JCLS IFRRO 著作権審議会 国際複製権機構 複製ビジネスコピー事件 WIPO
 日本著作出版権管理システム 日本複写権センター

ベスト10

1位	著作権法	462
2位	文化庁	397
3位	日本複写権センター	235
4位	自然科学書協会	232
5位	ベルヌ条約	187
6位	万国著作権条約	180
7位	出版者著作権協議会	179
8位	著作権審議会	152
9位	日本著作権管理システム	93
10位	IPA著作権シンポジウム	83

質問回答数グラフ



注) 著作権審議会はH13年より文化審議会著作権分科会です。出題が不適当でした。

●コンビニでの複写と図書館の中での複写の違いをなかなか理解できないようです。もうちょっと、社会がコピーについての意識をもったほうが良いと思います。(30代、図書館関係者)

●複製権という考え方もある。利用する側も大切にしなければならない。違法とならないように法改正も必要ではないか。アンケートをどのように使うかわからないが統計をとっていくなら建前論になるような気がします。(30代、図書館関係者)

●今後デジタルによる出版デジタルパブリッシングが増加すると思われるが、この場合印刷物と違ってコピーが

安易であることから違法コピーが増えると思う。著作者としてコピーガードなど措置を強く望む。(30代、その他)

●著作権の尊重は必要であると思っているが、普段は安易にやっちゃっている。(40代、会社役員)

●今、仕事上とくに興味をもって情報を収集しています。一括して事業として行なっているところがわかって、今日はよかったです。(40代、会社役員)

●企業にとって、学術著作を使用する場合の著作権の利用についてシンプルに対応できるような制度整備をお願いしたい。(40代、会社役員)

朝倉理事長、書協理事長に就任

当協会の朝倉邦造理事長は、このたび日本書籍出版協会理事長に就任した。創設時の下中弥三郎会長から数えて6代目、法人化した際の野間省一理事長から数えて5代目で、自然科学系出版社の代表者が同協会の理事長に選出されたのは初めて。出版業界は再販問題が一段落したものの、出版者の権利法制化問題やメディア規制など出版の自由に関する問題、再販制度下の弾力運用・流通問題などの課題が山積しており、

新体制の書協がこれらの課題にどう対応するかが問われている。朝倉新理事長の手腕に期待したい。

理事長就任にあたって同理事長は、「出版界は激変の時代の最中にあるが、変化（change）と好機（chance）は1字違い。変化を危機や混沌としてではなく、事業推進や問題処理の好機として捉える前向きの姿勢で協会運営に取り組みたい」と抱負を述べ、「自然科学書協会は書協の中でも一大勢力を保持しており、その意味でも会員各社の協力を期待したい」と特にコメントを寄せた。（専務理事 志村幸雄）

●一般への啓蒙活動を活発にしたら良いと思います。社会の健全な発展に不可欠なことと思われますのがんばって欲しいです。（40代、教員）

●図書館を利用してコピーをとるとき、著作権があるので一部分しかコピーできないことは知っています。新聞やTVでビデオ、映画の著作権（？）とか過去の本の再販の時にもいわれているような気がします。実生活ではCDやビデオやコンピュータソフトのコピーなどをしていて、本当は著作権違反をしているなと感じています。（40代、その他）

●企業や研修などでの自宅の著作物を使用する場合も著作権元に許諾を得て行なっています。教育研修でもOHPに示す（複写）時にも配慮をしています。（40代、その他）

●学術成果の安易なコピー利用は学術出版を困難にし、研究者自身の首を絞めていることをもっと認識すべきです。（50代、会社役員）

●コピーの無許諾横行は出版者の存続の土台を揺るがしかねない重大な問題をはらんでいるので、何らかの規制を強化すべきである。また、著作権は意外と大衆の関心が薄いと思われるので社会全体に関知する必要があると思う。テレビメディアで訴えるのが一番か。（50代、会社役員）

●コピーは避けられない場合が多々ある。コピーの制限（条件）およびコピーする場合の金額などについて書類に標記したら？（コピーの推奨には必ずしもならないと思いますが？）（50代、自営業）

●学校図書館に勤務しています。今図書館は本やコンピュータなどを検索の手段として調べ学習するようになっています。当然資料のコピーなどをします。そのコピーが「著作権」と深く関わるわけで、あまりよくその内容を知りません。もっとよく知りたいと思い、このコーナーに顔を出しました。（50代、図書館関係者）

●●) 報 告 (●●

来場者をもっと呼ぶ工夫を！

—東京国際ブックフェアの感想—

「自然科学系の来場者をもっと増やして欲しい」というのが、自然科学書に携わるのものとしての「東京国際ブックフェア2002」に対する感想です。

東京国際ブックフェア2002（主催：東京ブックフェア実行委員会）が、4月18日（木）から20日（日）の4日間、東京ビッグサイトで開かれた。自然科学書フェア、東京ブックフェア、人文・社会科学書フェア、デジタルパブリッシングフェア、児童書フェア、学習書・教育ソフトフェア、編集制作プロダクションフェアの



テープカットする朝倉理事長



自然科学書協会のブース

7フェアが一堂に会し、東京国際ブックフェア2002として過去最大の25カ国から550社が出展、入場者も過去最高の42,565人(前年比+4%)を記録した。

フェアは渡邊実行委員長の挨拶に続き、三笠宮親王殿下、各国大使館、関連団体代表44名によるテープカットで始まり、初日、2日目は招待日で図書館、書店、編集者など出版関係者の来場があった。3日目、最終日は一般公開日で、書店、図書館関係者に加え教育関係者などが来場し、当協会ブースにも多くの方が訪れた。

当協会は、自然科学書フェアの中に協会ブースとして3ブースを確保し、70社、2,091点、2,520冊を展示、4日間で314冊、963,537円の売上を記録。同時に、自然科学書協会英文目録、理学書目録、工学書目録、医学書目録、生活・家政学書目録、農業書目録(1点200冊)の他、会員社の図書目録(1社30冊)を展示・配布した。

さらに、隣接して著作・出版権委員会がブースを設け「違法コピーをなくそうキャンペーン」として、パネル、パンフレットの展示とチラシの配布による来場者へのアピール、違法コピーに関するアンケート調査を行ない、その結果は別掲の通りです。

フェア自体は過去最大の出展規模で、来場者も過去最高ということでしたが、自然科学書という観点から見ると、成果は今一つのように感じています。それは、会員数の割には出品点数が少なく、また、フェアの大きな目的である海外出版社との「著作権取引」も、会員社への問合せはわずか数件だったからです。その

ことから、今後の反省点として、展示品目を増やし、来場者に専門書の存在をもっとPRする必要があります。また、目録も1社当たりの配布部数が少なく、3日目にはほとんど無くなっていることから、配布部数をもっと増やすべきであろうと思います。

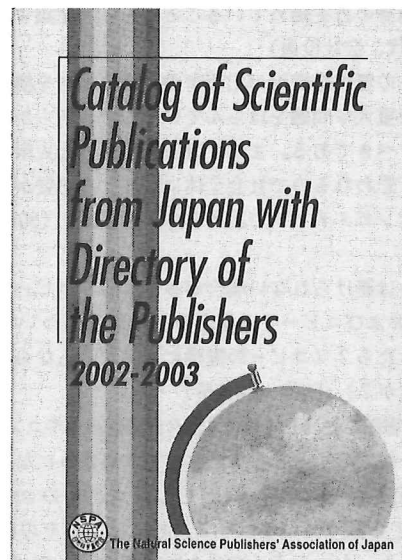
何よりも重要なことは、会員会社に関係した国内外の教育者、技術者、研究者など、未来の読者につながる方々の来場を促すように、主催者に働きかけることではないでしょうか。同時に、会員社も著者、読者、関係者に、来場をもっと呼びかける努力が必要だと、いまも思っています。(広報委員会 新谷滋記)

英文自然科学書目録発行の有効性

「英文自然科学書目録2002-2003」は、4月18日から開催の東京国際ブックフェア2002に合わせて発行しました。ここに改めて、ご協力頂きました会員各社に対して、厚く御礼申し上げます。

この英文目録は、今後フランクフルトブックフェアをはじめとする各ブックフェアを通して、自然科学書を世界に広める一助になるものと確信しております。

さて、このたびの英文目録の作成にあたっては、新刊書を含めて450点を目標にして原稿募集をしたところ、44社より367点の掲載申込を



英文自然科学書目録の表紙

いただきました。前回の英文目録（2000-2001）では、47社より402点の掲載申込がありましたので、それよりも30点少なくなり、目標としていた450点には83点少ないという結果に終わってしまいました。

昨今は、アジア諸国においてもブックフェアが盛んに行なわれるようになり、それに伴って日本の出版物を海外に紹介する機会も増えつつあります。また、それに合わせた出展などによって、積極的に展示・売込みを計っていくことも多くなっています。そうした取組みが、韓国や中国などから翻訳に関する問合せが増える要因でもあり、それは日本の出版物への関心の高さを現すものでもあります。

しかしながら、日本の出版物の海外への普及となりますと、まだまだ決して多いとはいえないと思われまます。そのためにも、こうした英文

目録を有効に活用する場として、各ブックフェアの機会をとらえて、おおいに自然科学書をアピールしていきたいと考えています。

（国際委員会委員長 南條光章）

退任にあたって

今井康之（元常務理事）

5月末に岩波書店を引退したことによって、自然科学書協会に大変ご迷惑をおかけすることになり、申し訳なく思っております。任期半ばにして、しかも常務理事という責務を負いながらの退任となり、誠に心苦しい限りであります。

在任3年、大変短い期間でしたが、協会内の多くの皆様方に接することができ、また、

関連団体の横顔

家政学図書目録刊行会

当会は、1966年に家政学図書を多く出版している9社（朝倉書店、医歯薬出版、家政教育社、建帛社、光生館、柴田書店、女子栄養大学出版部、第一出版、同文書院）により「家政学図書出版会」として発足、1984年に現名称となりました。書店に並ぶことの少ない家政学関係図書の一層の普及を目的に組織され『家政学図書目録1967年版』を創刊、以降毎年刊行を続け、本年の2002年版で通巻36号になります。この間時代の動きに合わせ、目録の名称は1993年版より『生活・家政学図書目録』としました。現在の掲載出版社は125社、掲載点数は5,000点を超えています。本目録では利用者の便を考え、生活・家政学一般、生活経営・経済、家族の生活、食生活、栄養、食品、調理、食事療法、健康、保健・衛生・生理、衣生活、住生活、生活環境、児童の生活、生活福祉、生活情報、家庭科教育の17分類に分けて掲載しています。

目録刊行の他、「日本家政学会」「日本栄養・食糧学会」の年次総会では、当会が主催して図書の共同展示販売を行なっています。これには

会員社以外にも呼びかけ、毎年約25～30社が参加しています。また、日本理学書総目録刊行会、農業書協会と共催で「科学と技術図書10,000点フェア」を行なっています。これは、専門書をなかなか手にとって見ることのできない地方の読者のための図書フェアで、1982年以来ほぼ毎年開いています。

当会は昨年（2001年）、創立35周年を迎えられたことを感謝し、目録掲載社、作製・販売・普及にご協力いただいた方々百余名をお招きし、東京会館で祝賀会を開きました。

当会ホームページ：<http://seikatu-kasei.com/>

（建帛社 筑紫恒男）



学会での目録の配布。左より、加藤（第一出版）、岩佐（女子栄養大出版部）、中川会長（光生館）、筑紫（建帛社）

率直な関係でのお付き合いをさせていただき、有難く思っております。

この間の大きな課題は、なんとといっても再販問題でした。公正取引委員会の本来的な意図を根絶するには至りませんでした。私たちの取り組みと運動の結果として、制度そのものについては、無傷のまま存続させ得たことは大きな成果でした。

出版界もまた、多事多端な時代を迎えております。この不振の主因を経済不況だけに帰することができないところに、他の産業、業界と異なった特有の深刻さがあると思えてなりません。

若い年代層や大学生たちが、「本」や新聞を読まない兆候を示し出したのは、もうかれこれ四半世紀も前からのことです。今では、それらの年代層が人の親となり、人を教える職業に就くなど、社会の中核部門に位置しつつあります。日本社会は、その存立の基本である知的基盤を著しく衰弱させております。昨年専門書取次の倒産は、こうした状況の集約的な表現でした。

私はこれからも一層、広い意味での読書環境づくりの市民活動を続けていきたいと思っております。4年前に始めた須崎市での信州岩波講座という事業がありますが、これは市民ボランティア組織と自治体を中心に企画・運営しているもので、地元紙の信濃毎日新聞社と岩波書店がそれを応援するという新しいタイプの文化運動です。今年は講師の一人として大江健三郎さんが二つ返事で引き受けてくださいました。みんな時代について共通の危機感を抱いているので、手弁当精神で協力してくれております。昨年は、松本市で加藤周一さんに馳せ参じていただいて、同主旨の講座運動がスタートしました。やはり同じく昨秋、出版のOB、現役が核になって武蔵野市で、井上ひさしさんに講師になってもらって「出版NPO 本をたのしもう会」という活動を旗揚げしました。どこも10年、20年の計画として取り組んでいます。

状況を悲観的に見る限り絶望感を深くしますが、運動をつくり出すと希望の灯が微かに見えてくるような気がします。

わが協会の朝倉理事長が、書協の理事長に推挙されたのも、新しい情勢を切り拓くための天の采配なのかも知れません。ご苦勞の多いことですが、ご奮闘を祈ってやみません。

最後になりましたが、皆様の一層のご健勝とご精励を念じ申し上げて、ご挨拶とさせていただきます。お世話様になりました。

【今後の主要行事】

◆第51期定時総会

日時：2002年7月18日(木) 17:00～(終了後懇親会)
場所：日本出版クラブ会館

【役員・代表者変更】

(株)岩波書店・今井康之氏の退職に伴い、当協会役員および同社代表者が次のように変更した。

◆役員交替

常務理事(広報委員会担当) 筑紫 恒男(建帛社)
税制・再販流通特別委員会 志村 幸雄(工業調査会)

◆代表者変更

旧代表者 今井 康之
新代表者 宮部 信明(取締役 編集局担当)

【退会社】

◆医学図書出版(株)

【事務局担当者交替】

前担当者 吉弘 幸枝
新担当者 鈴木 喜代子

編集後記

◇通勤の往復時に電車内を見回すと、寝ている人、新聞を読んでいる人、本を読んでいる人、特に本は文庫本が主流で、次がマンガ週刊誌、中でも私と同年代くらいの方が分厚いマンガ週刊誌を読んでいることがある。悪いとは言わないまでも、もう少し活字の多いものを読まないのかなと不思議に感じることもある。旅の本でも小説でもたくさん読んで頭を使い、将来に向けてのポケ防止に少しでも役立てたらと思いたしますがいかがでしょうか。(M. S)

第51/52期広報委員

<担当常務理事> 筑紫 恒男(建帛社)
<委員長> 江面 竹彦(産業図書)
<副委員長> 平田 直(中山書店)
松嶋 徹(丸善)
<委員> 井上 昭彦(朝倉書店)
池田富士太(科学新聞社)
新谷 滋記(工業調査会)
相馬三喜男(南江堂)